

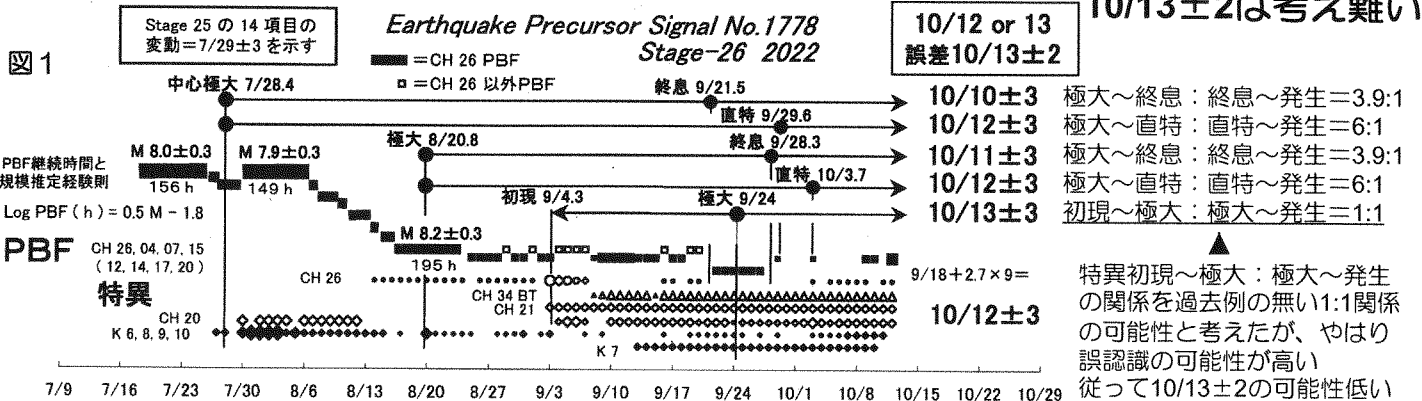
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.341

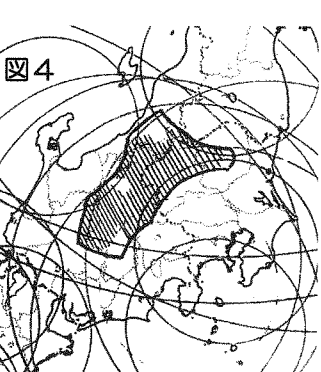
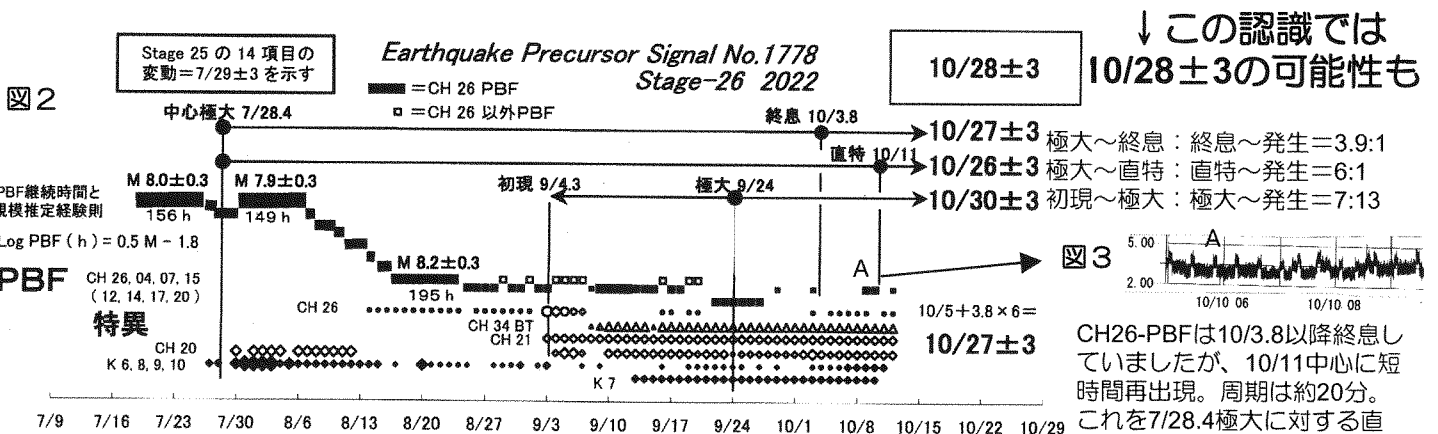
2022.10/12 (水曜) 14:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 続報 本日特異終息の可能性低い 経験則の無い 1:1 関係は誤認の可能性有 10/13±2は考え難い



特異変動 20:13 経験則で計算 10/11にPBF短時間再出現 これが直前特異の可能性?



- 推定領域: 図4太線内領域
- 推定規模: M8.0±0.3
- 推定時期: 10月28日±3
- 但し10/20±1特異終息が条件
- 地震種: 震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻: 午前9時±3 または 午後6時±3

前続報までは10/13±2発生の可能性を考えました。この場合、複数観測装置の特異の関係を過去例の無い 1:1 である可能性を考えました。初現~極大: 極大~発生=1:1 である場合は、本日10月12日に特異が終息し、発生となる可能性が計算されます。しかし本日の継続する特異変動の様子を見ますと、終息への変化は認められません。加えて八ヶ岳のCH34-基線増大BTは午前9時頃に終息し、18時頃からBT出現を記録してきましたが、本日12日、午前9時頃よりBTが現れる補完的なBT出現が現れました。BTの変化としては通常認められる変化です。従ってBTも本日~明日に終息する可能性は非常に考え難い状況です。これらのことから、図1で示した変動変化関係は誤認である可能性が高い見解となりました。

図1でCH26-PBFの直前特異とした9/29.6、10/3.7の再出現をPBFの出現期間とし、10/3.8をCH26-PBFの終息として計算してみました。この場合は10/27±3発生の可能性が計算できます。さらにPBFは約1週間静穏が継続していたCH26に図3のとおり、今までにない周期20分のPBFが再出現。これを7/28.4極大認識のCH26-PBFに対する直前特異と認識しますと、10/26±3発生の可能性が計算できます。特異変動も9/4.3初現~9/24.0極大の関係を 1:1 ではなく、経験則のTfap:Tmap=20:13から初現~極大: 極大~発生=7:13 の経験則で計算しますと、10/30±3発生の可能性が計算されます。これらの再認識図2が正しい場合は10月28日±3発生の可能性が示唆されることとなります。これが正しい場合は10/20±1に現在継続中の特異・BTが終息する可能性が計算されますので、これが観測されるまで正否判断可能。14日までに発生無ければ、前述の可能性が考えられます。さらに観測検討続けます。

※推定内容根拠はNo337を参照下さい
※図4斜線域は火山近傍参考推定域を示す C) Copyright 2022 YSBO 八ヶ岳南麓天文台